

地区のイメージ図や写真を
貼り付け

湖西市
地区名地区防災計画

令和 年 月策定

「基本方針」

- 目 次 -

1. 計画の対象地区の範囲・計画の策定主体	○
2. 基本的な考え方	○
(1) 基本方針（目的）	
(2) 活動目標	
(3) 長期的な活動計画	
3. 地区の特性	○
(1) 自然特性	
(2) 社会特性	
(3) 災害特性	
(4) 防災マップ	
4. 防災活動の内容	○
(1) 防災活動の体制	
(2) 平常時の活動	
(3) 発災直前の活動	
(4) 災害時の活動	
(5) 復旧・復興期の活動	
(6) 市、消防団、各種地域団体、ボランティア等との連携	
5. 実践と検証	○
(1) 防災訓練の実施・検証	
(2) 防災意識の普及啓発	
(3) 計画の見直し	

1. 計画の対象地区の範囲・計画の作成主体

■計画の対象地区の範囲：〇〇町内会・自治会 ※世帯数：〇世帯、人口：〇人（令和〇年〇月末現在）

■計画の作成主体：〇〇自主防災会、〇〇町内会・自治会

「市のハザードマップ」を貼り付けましょう。

2. 基本的な考え方

(1) 基本方針（目的）

地区防災計画の基本方針（目的）を決めましょう。

(2) 活動目標

基本方針に基づいた具体的な活動目標を決めましょう。

例：住民の防災意識の向上

住民が安心・安全に暮らせるまちづくり

避難行動要支援者に対する住民による支援体制 …など

(3) 長期的な活動計画

タイムライン（本編 P.17）を意識して、時間の経過に耐えうる活動計画を立てましょう。具体的な期間を決めることも大切です。

3. 地区の特性

地区特性は計画の対象範囲によって異なります。以下の例を参考に自分たちの住む地域における地区特性について、必要な情報を記入しましょう。

(1) 自然特性

本地域の自然特性は、_____。

(例：沿岸部、内陸部、河川沿い、山沿い、山間部 …など)

地域住民の聞き取りやワークショップなどで出た意見や危険な場所、地区の特徴的な場所などについて、必要な情報を記載しましょう。

(2) 社会特性

本地域の社会特性は、_____。

(例：市街地、郊外、特徴的な人口比率 …など)

ワークショップや地域住民の聞き取りなどで出た意見や危険な場所、地区の特徴的な場所などについて記載しましょう。

例：

■市街地

…商業施設や自動販売機設置数が多い、外国人等の滞在者が多いなど

■郊外

…田畑が多い、ショッピングモールや広い駐車場があるなど

■地域の人口比率

…過疎地域（沿岸部や山間部など）

…要配慮者（乳幼児、子供、高齢者、障害者等）

⇒避難行動における支援、避難所生活への配慮 など

(3) 災害特性

市のハザードマップ（市ウェブサイト認）や静岡県統合基盤地理情報システム(G I S)（県ウェブサイト）などを確認
湖西市津波防災地域づくり推進計画で確認（市ウェブサイト）

①地震（全域共通）

a.地震の想定（震度分布）

「震度分布図」を貼り付けましょう。

（参考資料として掲載しても構いません。）

b.液状化の可能性…あり／なし

「あり」の場合、該当する範囲の
「液状化危険度予測図」を貼り付けましょう。

（参考資料として掲載しても構いません。）

c.津波被害の可能性…あり／なし

「あり」の場合、該当する範囲の
「津波浸水想定図」を貼り付けましょう。

（参考資料として掲載しても構いません。）

d.住民意見・認識

ワークショップなどで出た住民の意見や危険な場所、地区の特徴的な場所など地区の特性について既に周知の事実を記載しましょう。

例：避難経路、一次避難場所、指定避難所の確認 など

②土砂災害（山沿い、山間部、河川沿い）

a.土砂災害の危険性…あり／なし

「あり」の場合、該当する範囲の
「土砂災害（特別）警戒区域図」を貼り付けましょう。

b.住民意見・認識

ワークショップなどで出た住民の意見や危険な場所、地区の特徴的な場所など地区の特性について既に周知の事実を記載しましょう。

例：避難経路、土砂災害などの危険箇所、連絡網体制 など

③水害（沿岸部、河川沿い）

a.河川氾濫の影響を受ける可能性…あり／なし

b.浸水の可能性…あり／なし

「あり」の場合、該当する範囲の
「洪水浸水想定図」を貼り付けましょう。

c.住民意見・認識

ワークショップなどで出た住民の意見や危険な場所、地区の特徴的な場所など地区の特性について既に周知の事実を記載しましょう。

例：避難経路、河川周辺の危険箇所 など

(4) 防災マップ

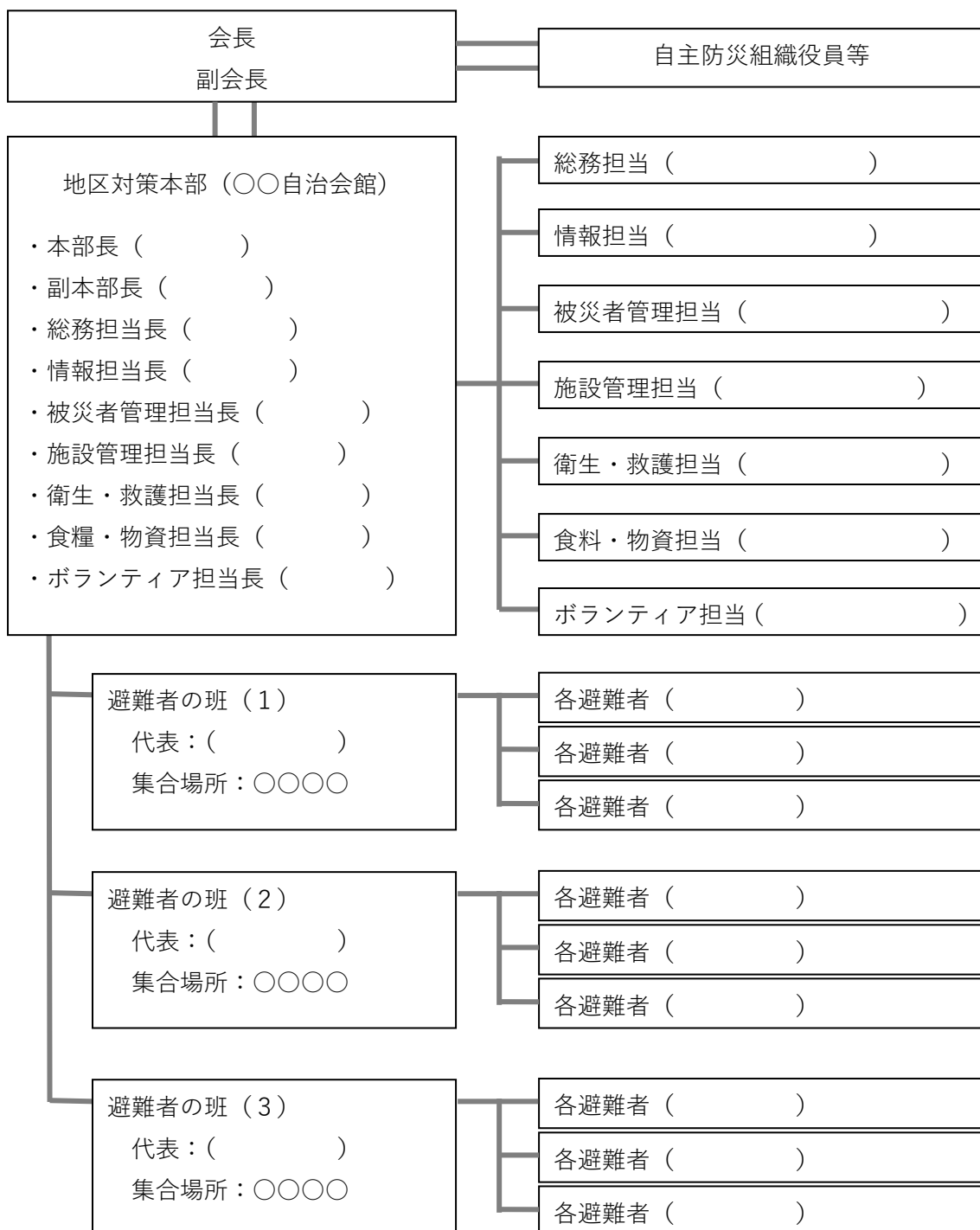
まず、市のハザードマップや静岡県統合基盤地理情報システム(GIS)を確認して、地区の災害特性を確認します。

＜補足＞

- ・ハザードマップ等には掲載されていない、地域住民が把握している避難経路上のリスク（橋梁の損傷、家屋倒壊）をマップに反映してください。特に一時避難場所までの避難経路に危険がないか再確認しましょう。
- ・多様な視点から見た情報を整理し、防災に関心が低い住民でも理解できるように作成しましょう。

4. 防災活動の内容（例）

（１）防災活動の体制



実状に合った連絡体制にしましょう。既に決まっている体制があれば、それを改善して使うこともできます。

（２）平常時の活動

災害時の動きを想定した上で、日頃からどのような備えをしておくか検討します。災害時や復旧・復興時にどのような活動をするか話し合った後に検討してもよいでしょう。

例：備蓄品及び防災倉庫の整備・管理、協力事業者との災害協定の締結、危険箇所の点検、指定避難所・避難路等の確認 …など

（３）発災直前の活動（土砂災害、水害時のみ）

災害種別や警報、避難情報の度合（大雨・洪水・高潮注意報、高齢者等避難、避難指示、緊急安全確保）によって、どのような動きをするか、細かくシミュレーションすることが重要です。

例：情報収集・共有・伝達、連絡体制の整備、状況把握（見回り、住民の所在確認等）、避難判断・避難行動等 …など

（４）災害時の活動

行政の支援や救助が届かない又は間に合わない状況では、特に自助、共助による助け合いが重要となります。想定外の事態に備えて、地域の力で生き延びる体制づくりをしましょう。

例：救出及び救助、身の安全の確保、出火防止・初期消火、避難所運営・避難所外避難者への支援 …など

（５）復旧・復興期の活動

家屋の被害状況によっては、長期に渡る避難所生活が強いられる場合があります。炊きだしや支援物資の運搬など、地域で協力して被災者への支援を行いましょう。

例：被災者への支援、復旧・復興活動の促進 …など

（６）市、消防団、各種地域団体、ボランティア等との連携

行政関係者、学識経験者等の専門家のほか、消防団、各種地域団体、ボランティア等との連携・協力は非常に重要です。

また、そのほかにも近隣地域や地区内で、協力や活躍の期待される事業者がいないか確認しましょう。

資機材の貸し出しや、災害活動に必要な駐車場の提供など、協力の約束を記した書式（協定書等）を作成して取り交わしておくとい良いでしょう。

5. 実践と検証

(1) 防災訓練の実施・検証

現状の防災訓練の内容を列記し、今後、本計画の内容を実行するためにはどのような改善や新たな訓練が必要となるか検討しましょう。

(2) 防災意識の普及啓発

防災を考える上で、個人での備えは重要です。防災意識の普及啓発のためにまちでできることを話し合いましょう。

(3) 計画の見直し

計画は作成するだけでなく、定期的に見直すことが重要です。年に1回を目安に、次に見直す予定を立てておきましょう。